

3

301

2005年3月号

THE SERVICE CLUB OF THE Y.M.C.A
AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUB

京都ウエストワイズメンズクラブ

BAMBOO

強い義務感を持とう！義務は全ての権利に伴う！

クラブ会長標語 プロジェクトW パート2

うきうき！ わくわく もっとワイズを楽しもう！

標語

国際会長 “Let Your Light Shine” 「輝かせ あなたの光を」
アジア会長 “Love Your Neighbors as Yourself” 「自分を愛するように隣人を愛せよ」
西日本区理事 “皆な仲間” 働こう！ “Be Soul Mates” - To Work Hand in Hand -
京都部部长 “子供達に渡すべき未来” - 今 ワイズが出来ること -

強調月間

E F ・ J W F

父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。

ヨハネによる福音書 17章 21節

私とYMCAとキリスト教



連絡主事 中田 一夫

私がYMCA と出会ったのは、18才で大学受験に失敗し、大阪Yの予備校に通い始めたのがはじめてでした。受験勉強の中、休みの時間にチャペルアワーというものがあり、そこで聖書を読んだり、讃美歌を歌ったりしましたが、聖句の意味もわからず、讃美歌も聞きなれないものでした。

大学時代は、とにかくいろんなことを経験したいという動機だけで、いいかえれば「自分探し」のために滋賀のYMCAでボランティアリーダーをしていました。子ども達と関わるプログラムが主ですから、そこにどのような意図があり、YMCAは何を大切にしているか、当時のディレクターや仲間のリーダーたちと喧々諤々議論をよくしたと思います。

「一切の利害関係がなく、何でもいいあえることが居心地よく、人間として意味ある活動」これは胡内さん(ライズ)の言葉ですが、まさに今のウエストのようなリーダー会でした。

時に、キリスト教について深く疑問をもち、ディレクターにつかかったことを思い出します。YMCAはキリスト教を理念とする団体だというのに、ディレクター自身があまり興

2月在籍者

会 員	月 例 会	96.3%	切手	0.Pt	第一例会	ネットファンド
27名	メン 21名	(マイキャップ誌)	現金	0.Pt	0円	0円
広義・功労会員	ネット 0名				第二例会	
	コメント 0名				14,500円	
	ビジター 0名	前月出席率	累計			ファンド
合 計	ゲスト 2名	修正	切手	0.Pt	累計	年間合計
29名	計 23名	なし	現金	0.Pt	117,212円	0円

味を示さない方も中にはおられたことに憤慨したこともあります。今から考えれば、確信のもてる思想や考え方、信念が欲しかったのだと思います。

その後、大学卒業の時には仲間だったリーダーは思い思いの仕事につき、私一人、神戸のYMCAで仕事をするようになりました。私はそもそも、給与や労働条件などで仕事を選びませんでしたので、引き続きYMCAの働きとは何なのか、キリストの信仰とはどういうものなのか、いつ解決するともわからない問題を抱えて仕事をしていました。

しかし、一つの転機がきました。それは、娘の誕生です。娘の誕生は今まで経験したことのない喜びでした。と同時に大きな責任をも感じました。そして、家族を持つ一人の人間として生き方に道筋をつけなくてはならないと、その時思ったのです。そして、自分の歩いてきた道のりを振り返ってみるとその時々キリスト教との関わりがあったことに気づきました。そして、受洗しました。

私は自分のことを「だめクリでもクリ」と称しています。その訳は「だめなクリスチャン、でもクリスチャン」と言う意味です。私はクリスチャンですが、何も偉くありませんし、清くもありません。普通の方と何も代わりありません。ただ一つ異なるのは、「イエス・キリストの生き方に学びながら人 (次頁につづく)